

薬学部 薬学科のカリキュラム・ポリシー

1. 長崎大学のカリキュラム・ポリシー及び文部科学省薬学教育コア・カリキュラムに基づき、体系的かつ主体的に学修できるようカリキュラムを編成しています。

2. 入門科目では、薬学全般の基本的知識と薬局病院見学などで薬剤師の業務について学びます。

評価は主にレポートによって行います。

3. 専門基礎科目では、物理化学、分析化学、有機化学、生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識と共に、薬用植物学、衛生薬学、薬剤学、薬理学、生理解剖学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに、専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方、方法、技能を習得するとともに、共用試験や薬局病院実習に向けて、実務に関連する知識や技能の習得のための実習を行います。

評価は主に試験とレポートによって行います。

4. 専門科目では、生命科学や医薬品に関してより深く学ぶとともに、薬物治療学、生薬学、臨床検査学、医薬品評価学など薬学独自の高度な専門的知識を学びます。

また、医療倫理、実践薬学、医療コミュニケーション、在宅医療実践学などの科目で、薬剤師として修得すべき基本的知識と能力、技能、心構えを学び、病院や薬局での実務実習では、それまでに修得してきた知識や技能を実践することで、薬剤師として求められる基本的な資質を修得します。

評価は主に試験、レポート、ポートフォリオなど多面的に行います。

5. 発展的科目の科学英語、医療実験計画法、医療薬学特別実習では、英語論文を読解し、実験計画を立て、研究を行い、結果を卒業論文としてまとめると同時に公開発表会で発表することで、論理的思考力、課題発見能力、及び問題解決に向けた計画立案能力を養います。また、在宅医療実践学と医療薬学総合演習では薬剤師としての知識の総括を行い、高次臨床実務実習では、大学病院の病棟や外来での業務や、離島における医療連携について現場で学びます。これらを総合して生涯にわたり自己研鑽を続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を育成します。

評価はセミナー発表、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

科目に関する別表（薬学部 薬学科）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識	薬学概論Ⅰ・Ⅱ 基礎有機化学 基礎生物学Ⅰ・Ⅱ 基礎物理化学			薬学概論Ⅲ
	研究に必要な考え方, 方法, 技能		薬学基礎実習		
	生命科学や医薬品に関するより高度な知識	有機化学 A 薬品分析化学Ⅰ 生化学Ⅰ 有機電子論 生物物理化学 生物有機化学	有機化学 B・C・D 薬品物理化学 薬品分析化学Ⅱ 生化学Ⅱ・Ⅲ	微生物学 放射化学Ⅰ・Ⅱ 細胞生物学 分子生物学 天然物化学	
	薬学分野で特に重要となる高度な専門的知識	分子構造解析学 健康薬科学概論	薬用植物学 臨床漢方学 生薬学 衛生薬学Ⅰ 薬学統計学 生理・解剖学Ⅰ 薬理学Ⅰ 臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学 薬剤学Ⅰ	生理・解剖学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 衛生薬学Ⅱ 細胞生物学 化学療法学 医薬品情報学 免疫学 医薬品評価学 薬剤学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 薬物治療学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	創薬科学 A・B
	薬剤師として修得すべき基本的知識と能力, 技能, 心構え	薬学概論Ⅱ	医療倫理Ⅰ 実践薬学Ⅰ 臨床薬学Ⅰ	薬事関連法規 医療倫理Ⅱ 実践薬学Ⅱ 医療コミュニケーション 臨床薬学Ⅱ	在宅医療実践学 医療薬学総合演習
	病院や薬局で必要な知識と技能の実践	在宅ケア概論Ⅰ・Ⅱ	実務実習（事前実習）	実務実習（病院・薬局実習）	
	自己研鑽・教育能力, 研究能力				グローバル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ 基礎科学英語 科学英語 応用科学英語 先端薬学実験スキルⅠ・Ⅱ 医療実験計画法 医療薬学特別実習
	病棟や外来での業務や, 離島における医療連携				高次臨床実務実習Ⅰ・Ⅱ

薬学部 薬科学科のカリキュラム・ポリシー

1. 長崎大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、体系的かつ主体的に学修できるようカリキュラムを編成しています。

2. 入門科目では、薬学全般の基本的知識と製薬企業や研究所見学などで研究者・技術者の業務について学びます。

評価は主にレポートによって行います。

3. 専門基礎科目では、物理化学、分析化学、有機化学、生化学など生命科学や医薬品について学ぶ上で必須の基礎知識とともに、薬用植物学、衛生薬学、薬剤学、薬理学など薬学分野で特に重要となる科目の基礎を学びます。さらに、専門基礎実習では各専門分野での研究に必要な考え方、方法、技能を修得します。

評価は主に試験とレポートによって行います。

4. 専門科目では、生命科学の基盤となる知識を深めるとともに、生物有機化学、分子生物学、天然物化学など、医薬品開発に必要な高度な専門的知識を学びます。また、薬物治療、薬物代謝、医療倫理、医薬品情報学など薬学独自の幅広い知識を修得します。

評価は主に試験で行います。

5. 発展的科目の創薬科学では、それまでに身につけてきた知識を基盤として医薬品開発について総合的に学びます。また、科学英語、実験計画法、薬科学特別実習では、英語論文読解、実験計画立案、研究の実践、卒業論文作成、発表を通して論理的思考力、課題発見能力、及び問題解決に向けた計画立案能力を養うことで、総合的に自己研鑽力と研究能力を育成します。

評価は試験、セミナー発表、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどにより多面的に行います。

科目に関する別表（薬学部 薬科学科）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として 養われ る資質	生命科学や 医薬品につ いて学ぶ上 で必須の基 礎知識	薬学概論Ⅰ・Ⅱ 基礎有機化学 基礎生物学Ⅰ・Ⅱ 基礎物理化学			薬学概論Ⅲ
	研究に必要 な考え方、 方法、技能		薬学基礎実習		
	生命科学や 医薬品に関 する高度な 知識	有機化学 A 薬品分析化学Ⅰ 生化学Ⅰ 有機電子論 生物物理化学 生物有機化学	有機化学 B・C・D 薬品物理化学 薬品分析化学Ⅱ 生化学Ⅱ・Ⅲ	微生物学 放射化学Ⅰ・Ⅱ 細胞生物学 分子生物学 天然物化学	
	薬学分野で 特に重要と なる高度な 専門的知識	分子構造解析学 健康薬科学概論	薬用植物学 臨床漢方学 生薬学 薬剤学Ⅰ 衛生薬学Ⅰ 薬学統計学 生理・解剖学Ⅰ 薬理学Ⅰ 臨床医学概論Ⅰ 医療倫理Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	生理・解剖学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅱ・Ⅲ 衛生薬学Ⅱ 細胞生物学 薬剤学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 薬物治療学Ⅱ 化学療法学 医療倫理Ⅱ 医薬品情報学 免疫学 医薬品評価学 医療コミュニケーション	創薬科学 A・B
自己研鑽・ 教育能力 研究能力	薬学概論Ⅱ				グローバル・コ ミュニケーシ ョンⅠ・Ⅱ 基礎科学英語 科学英語 先端薬学実験 スキルⅠ・Ⅱ 実験計画法 薬科学特別実 習